

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]
作成日 平成21年5月13日

【評価実施概要】

事業所番号	4072300462		
法人名	社会福祉法人 南八女福祉会		
事業所名	グループホーム いずんじま		
所在地 (電話番号)	福岡県八女市大字川犬1025番地 (電話) 0943 - 23 - 1988		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年4月24日	評価確定日	平成21年6月17日

【情報提供票より】(平成21年4月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 15 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋RC 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(1000000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 950 円			

(4) 利用者の概要(4 月 17 日現在)

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 88.8 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立八女総合病院・江上内科クリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

古くからの地域名称である「いずんじま(泉島)」という名が付けられたこのグループホームは、周囲を田園風景や茶畑に囲まれた、緑豊かな環境にある。広い敷地には塀や柵が無く、低い生け垣によって区切られており、開放感にあふれている。「地域の中の福祉」という思いからこの地に開設され、定期的に、また気軽に近隣の小学生や保育所園児が訪れ、入居者との交流が行われている。隣接する法人合同の秋祭りには地域より多数の参加があり、地域からの出店・子ども達の参加など、毎年盛況に開催されている。ゆとりある広さのホーム内には、入居者・職員の手づくりの作品が多く飾られ、和みある空間となっており、入居者の穏やかな生活が伝わってくるようである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価以後、運営推進会議の議事録が作成されている。その他の課題については、検討はされているが具体的な取り組みにはいたっていない。 今回の自己評価は管理者が中心となって作成されている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は行政職員・家族代表・民生委員・ホーム職員の参加があり、活動予定や報告を行い、質疑応答を行っている。現状として定期開催されていない。今後は参加者や内容についての検討を行い、定期開催及びサービスの質の向上に向けての、具体的な取り組みに期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族の来訪が多く、入居者の日々の暮らしの状況報告に努めている。現在法人のホームページに入居者の暮らし振りを写真とともに掲載している。今後は、メールによる個別の状況報告や写真の送付を検討している。また家族とのコミュニケーションを大切にし、意見を言いやすい関係づくりに努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地域住民との交流を図っている。法人合同で行っている祭りには、毎年地域より多数の参加があり、盛況に開催されている。小学校児童や保育所園児が定期的に、また気軽に訪問し、入居者の笑顔につながっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	開設時に管理者・職員により「一歩ずつ共に育む温かな生活」「ゆりの心とおもいやり」という入居者の方々と の関わりを大切にした独自の理念が作られている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えて いくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあ げている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	玄関の目に付きやすい場所に理念を掲示し、職員や 来訪者への共有に努めている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に 向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	町内会に加入し、地域住民との交流を図っている。法 人合同で行っている祭りには、毎年地域より多数の参 加があり、盛況に開催されている。小学校児童や保育 所園児が定期的に、また気軽に訪問し、入居者の笑顔 につながっている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自 治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地 元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価については、管理者を中心に行われている。 前回の評価以降の取り組みとして、運営推進会議の議 事録作成が行われている。		自己評価を職員全員で取り組むことにより、日々のケアの 確認や見直しにつながると考えます。評価結果を運営推 進会議等にて報告し、全職員でサービスの質の向上に向 けた具体的な取り組みを行う必要があると考えます。今後 の取り組みに期待します。
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評 価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体 的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は行政職員・家族代表・民生委員・ホ ーム職員の参加があり、活動予定や報告を行い、質疑応 答を行っている。現状として定期開催されていない。		会議報告書より、会議参加者の見直し・検討を行って おり、今後内容の検討を含め、定期開催へ向けての取り 組みに期待します。
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している			

グループホーム いずんじま

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	介護保険連絡協議会等を通じて、行政担当者との連携に努めている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、日常生活自立支援事業・成年後見制度を活用している入居者がおり、管理者は職員への説明を行っている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	家族の来訪が多く、入居者の日々の暮らしの状況報告に努めている。現在法人のホームページに入居者の暮らし振りを写真とともに掲載している。今後は、メールによる個別の状況報告や写真の送付を検討している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	重要事項説明書に、事業所や市町村の苦情相談窓口を明記し、家族への説明を行っている。家族来訪時には、コミュニケーションの構築に努め、意見の言いやすい関係づくりを大切にしている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	管理者は、馴染みの職員による支援の重要性を認識しており、やむを得ず離職者等が発生した場合には、引継ぎ期間を十分に設けるなど、入居者へのダメージが最小限になるように配慮している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、年齢や性別、資格を理由に採用対象から排除していない。何よりも「優しい気持ち」を持っている方、介護の仕事が好きな方を重要視している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム いずんじま

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	管理者は職員採用時に、入居者の人権尊重についての説明を行い、周知徹底を行っている。また日々のケアの様々な場面で、人権を尊重した言葉掛けや対応についての指導を行っている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	行政の行う研修や、地域における「在宅ケア研究会」の研修等に、職員の経験や能力に応じた参加を促している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	管理者は地域の同業者との交流の機会として、介護保険連絡協議会の立ち上げから関わり、その後広域連合や行政の参加も始まり、交流の輪が広がっている。毎月行われるグループホーム部会等での交流により、相互訪問や情報交換が行われている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	併設のデイサービスセンターからの入居や体験入居により、本人のペースで徐々に馴染みながらサービスを開始している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	日々の暮らしの中で、調理の仕方や工夫、伝統文化や行事のことなど、様々な場面で学ぶことは多い。またその機会が多くもてるような場面づくりに努めている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム いずんじま

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を参考にしたアセスメント様式を活用し、また家族にも記入してもらいながら、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	入居者・家族の意向を大切にしながら、「安心して生活するための計画」の作成に努めている。		一人ひとりの入居者の、地域の中での暮らしを支えて行くためにも、家族・職員・関係者での話し合いを重ね、個別・具体的な介護計画の作成が求められています。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	設定した期間での見直しを行い、状況の変化があった場合には、随時検討見直しを行っている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	本人・家族の希望や状況により、また日々の状況を正確に伝えるためにも、受診支援を行っている。隣接するデイサービスにて、2ヶ月に1回開催される公演に参加している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の希望するかかりつけ医を大切にしながら、適切な医療が受けられるように支援している。管理者は介護職として医師や医療機関との連携を行い、入居者本位の医療支援に努めている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム いずんじま

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	夜間にも対応可能な協力医療機関との連携により、健康管理や状況の変化に対応し得る体制づくりに努めている。現状として重度化や終末期への対応は行っていないが、今後の体制づくりについて検討を行っている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	各居室にトイレ・洗面が設置されており、プライバシーに配慮された設計となっている。職員は年長者である入居者を尊重した言葉掛けや対応を心掛けている。個人ファイルは施錠保管されている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	一日のスケジュールとして、昼・夕食・おやつのある程度決めているが、その他は自由に過ごしてもらっている。朝食は一人ひとりの希望や起床時間にあわせて、自由に食事している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	入居者の意思や能力を大切にしながら、米とぎや野菜の皮むき、食器洗いなどを職員とともにやっている。1日の食事の中で昼食をメインとして献立をつくり、隣接するデイサービスと一部協力しながら調理している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	お風呂を毎日沸かし、入浴の準備をすることで入居者の希望や状態にできるだけ沿えるように支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム いずんじま

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	毎月第3土曜日は「おやつの日」として、梅が枝餅や桜餅などを職員とともに手づくりし、入居者の楽しみな時間となっている。お茶を点てたり、花を活けたりそれぞれの得意な分野で力を発揮してもらっている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	法人として広く平坦な敷地を有し、戸外に出やすい環境にある。近隣への散歩や買い物に、日常的に外出している。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	帰宅願望のある方には、さりげなく見守りを行い、職員や他の入居者が寄り添っている。安全面に配慮しながら、日中鍵をかけない自由な暮らしを支援している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	昨年度は1回の避難訓練実施となっている。人口呼吸や緊急時の対応についての講習を受けている。		今後、隣接するデイサービス・消防署・地域との協働による訓練を計画している。訓練の年2回以上の定期開催、及び内容についての検討を行い、早期実現に向けての取り組みに期待します。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	入居者の栄養・水分摂取量を記録し、職員全員で共有に努めている。一人ひとりの状況や嗜好に柔軟に対応し、栄養摂取量が確保できるように支援している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム いずんじま

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	ユニット間には猫が住んでいる中庭があり、採光の工夫と季節感あふれる造りとなっている。ゆとりある和室スペースには炬燵が置かれ、居心地のよい空間となっている。ホーム内には職員によって描かれた入居者の似顔絵が飾ってあり、和みのある雰囲気を作り出している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	ゆとりある広さを持つ各居室には、トイレ・洗面が設置されており、プライバシーに配慮された造りとなっている。入口には職員の手作りによる暖簾がかけられ、入居者の希望や状況により、畳使用への対応や十分な収納スペースなど、居心地よく過ごせる工夫を行っている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			